
みんな大好き！ウルトラの街！

asuka1419

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

みんな大好き！ウルトラの街！

【Nコード】

N4003Y

【作者名】

asuka1419

【あらすじ】

もしも、平成ウルトラマンたちが怪獣と仲良く住んでいたら？そんな疑問から始まりました。たまに、仮面ライダーたちも登場します。

不定期更新です。

ウルティメイトフォースゼロがやってきた！

ここはとある宇宙の中にある地球ー。

その星には、ウルトラマンたちが住んでいた。

ダイゴ「いやー、平和だねえ。」

アスカ「そうっすねえー。」

平成街。

主に平成のウルトラマンが住む街である。

お隣は昭和町、もうひとつお隣は仮面ライダーの町。

ヒーロー同士仲良く暮らしていた。

そして・・・。

ゴルザ「グオオオン。」

メルバ「くえー。」

怪獣たちも仲良く暮らしていた。

・・・人間サイズで。

ここに、新たな仲間たちがやってきた。

ゼロ「ここか、俺たちの住む街は。」

グレン「そうらしいな！」

ナイト「いい街ですね。」

ジャン「さて、入るか。」

ウルティメイトフォースゼロのメンバー、

ウルトラマンゼロ。

グレンファイヤー！

ミラーナイト。

ジャンボットの4人（？）である。

ゼロ「ちわーっす・・・」

突然の訪問者に、街の住民は驚いていた。

住民A「きゃあ！？ウルトラマン！？」

住民B「え、なんか銀色のもいるけど？」

住民C「赤いのはウルトラマンじゃないでしょ、たぶん。」

住民D「おいしそうな感じのするロボもいるね。」

さまざまなことを言われながら、街中を見物している4人の前に、何かが現れた。

カイト「あゝ、新しく来たウルティメイトフォースゼロのみなさんですね？」

ゼロ「あんたは？」

カイト「僕はトウマ・カイトです。この街のボランティアをしています。さ、こつちへきてください！」

みんな待つてますから。」

グレン「みんなって？」

カイト「とにかくみんなですよ。」

一瞬不気味な笑いを浮かべたカイトは内心、

『この人どつかで見たことが・・・』

と、ゼロに向かって首をかしげていた。

ウルティメイトフォースゼロがやってきた！（後書き）

はじめまして、a s u k a 1 4 1 9です。
これからよろしくお願いします！

歓迎会の喜(悲)劇(前書き)

歓迎会に呼ばれた

4人達。

さて、何が起ころやら・・・。

歓迎会の喜(悲)劇

ゼロ「おーっ！結構すごいな！」

カイト「そりやそうですよ、キングも来ているんですから。」

グレン「キング？」

ゼロ「ウルトラマンの中で一番偉くて一番年をとったお方だ。」

5人は歩いていった。

ここは街で一番大きいドーム。

その名も『ガイアとアグルが喧嘩して出来たおかしなドーム』
略して『ガイアグルドーム』である。

ナイト「(この略し方はおかしいと思う……。)」

ジャン「(私もだ)」

会場――

「がやがや」

ムサシ「えー、みなさんお静かに！これから『ウルティメイトフォースゼロ歓迎会』をはじめます！開会の言葉、ヒウラキヤップ、お願いします！」

ヒウラ「えー、なぜか隣では我夢ちゃんと藤宮くんが変身して大喧嘩しているわけですが……。」

ジャン「(絶対このドームのせいだ……)」

ヒウラ「この度新しい仲間がこの街に来ました！皆さん盛大に歓迎しましょう!!」

「「「わあー!!」」」

会場は大盛り上がり。そんな中、一人だけ落ち込んでいる人が……。

カイト「orz」

トウマ・カイトである。

何ゆえ彼が落ち込んでいるのか。

その原因は高山我夢と藤宮博也の喧嘩を止められなかったことにあった。

そんな彼に誰も気づかない人々・・・。

彼は隅っこで体育ずわりをしていた。

ゼロ「うお！この鳥の丸焼きうめえ！！」

バードン並みの大きさの七面鳥の丸焼きをかじっていた。

グレン「ファイヤーアツアアアアアアア！！！！」

ミライ「おお！すごい炎ですね！僕も負けなぞ！！」

「メビウーーーーーース！！」

メビウス「でああああああ！！」

なぜかメビウスがバーニングメビュームダイナマイトでグレンに對抗し。

ナイト「・・・」

孤門「・・・」

ミラーナイトと孤門一輝が睨み合い。

ジャン「はっはっは。」

エリー「あははは」

ジャンとエリーが意気投合するという、普段は見れない状況になっていた。

そして・・・。

ゼロ「あー！俺が狙っていたフルーツパフェ！！」

西条「何？これは私が最初から狙っていたものよ。」

ゼロ「畜生！そのパフェをかけて勝負だ！！」

西条「望むところよ！！」

西条凧の変身したネクスス（アンフランス）がゼロと勝負をはじめ。

グレン「まだまだあ！！ファアイヤアアアアアアア！！！！」

メビウス「ハアアアアアアアアア！！！！」

グレンとメビウスが取っ組み合いをはじめ辺りは燃え盛り。

ナイト「フツ！ハツ！！」

孤門「てい、やあ！」

なぜか孤門とナイトが空手をはじめ。

ジャン「私なんて焼き鳥だのなんだのって・・・」

エリー「私は『お兄ちゃん』だのなんだのって・・・」

ジャン・エリー「壊してやる・・・、太陽なんて！！！」

ジャンとエリーがやさぐれていた。

さらにこの状況に堪忍袋の緒が切れたムサシがコスモス（コロナ）

になりネイバスター光線乱れ撃ち。

会場は一時騒然となった。

結局、千樹憐がジュネッスブルーに変身し、アローレイ・シュトロームを狂ったように撃ちまくり、事態は収束した。

千樹「・・・」

「「ごめんなさい」」

ムサシ「えー、今日はこれでお開きにします。最後に、ウルトラマニングからお話をいただきます！」

キング「えー、あー、うー、そのー、あー。」

アスカ「（イライライラ）」

キング「若い者達よ、協力してこの街を盛り上げてくれ・・・」

「「「おおーーーーー！！」」」

こうして歓迎会は終わった。

歓迎会の喜(悲)劇(後書き)

一番怒らせたら怖いのは

きっとダイゴさんです。

キングの声は小泉純一郎さんです。

私は小泉さんが総理だったところが一番よかったと思うのですが
どう思いますか？

大問題！？人間体はどうする（前書き）

お待たせしました！

第3話です！

大問題！？人間体はどうする

カイト「で、どうしますか？」

突然の質問。いきなり聞かれたウルティメイトフォースゼロの4人は、きよとん、とした。

ゼロ「何をどうするんだ？」

ゼロが聞いてみた。

カイト「何って……。人間体ですよ。僕たちウルトラマンは、地球上じゃ3分間しかいらませんが、なんと！この街では人間じゃなくてもいれるのです！ただし、基本タイプのウルトラマンだけが人間になれます。俺のようにね。」

くるり、と一回転した彼は説明を続けた。

カイト「しかあし！その他のタイプは人間になれません！あそこのゲートを通って、それぞれのタイプに分かれてもらいます。ほら、あそこ。」

指を差した先には、どこかの「おのれディケイドオオオオオ！！」と叫ぶ人がよく使うカーテンのようなものがあつた。

ナイト「たとえば、どんな風になるのですか？」

素朴な質問をする。

カイト「えーと、ティガを想像して下さい。ティガは7つのタイプになることが出来ます。（4つは特別なときのみ）基本のタイプ、マルチタイプがマドカ・ダイゴとなることができます。その他、スカイやパワーは彼の体から分かれ、自分の意思を持つことが出来ます！そして、マルチタイプは他のタイプになることが出来なくなります。」

ゼロ「なるほど、わからん。」
グレン「同じく」

ミラー「ゼロでたとえるならば、テクターを装備しているゼロ、君あのかなり神々しい姿に分かれるということですよ。」

ジャン「そして君は二度と他の姿になることは出来ない。こういうことだ。」

ゼロ「だがよう……。俺たち人間体、持っていないだろ？」
3人「「「あ」「」」

しばらくして……。
グレン「考えたぞー。」

ミラー「僕もです。」
ジャン「私もだ。」

3人は人間体の名前を考え付いた。

ジャンはともかく、ミラーナイト、グレンファイヤー、そしてゼロは人間になることが出来る。

しかしジャンボットはロボットだ。どうするかというと……。

ゼロ「ギャグだしどうにかなるだろ。」
ということだ。

ゼロ「う……。よし！いいや！」

やっと名前を思いついたゼロ。他の3人はもう人間になっていた。

蓮「燃える焰の紅炎寺蓮！」
「こうえんじれん
よはしりきよつや」

鏡夜「輝く鏡の夜走鏡也！」
「ちようこうしんご」

真悟「鋼鉄武人の鳥鋼真悟！」

3人は決めポーズをとっていた。

ゼロ「よっしゃ、俺も！」

カーテンに向かうゼロ。しかし、カイトが彼を止めた。

カイト「4文字にしましょうよ。どうせだし！」

ゼロ「・・・」

彼が考えた名前は諸星零。もろほしれい3文字で1文字足りなかった。

ゼロ「orz」

また位置から考え直すことに・・・。しかし！

ゼロ「これでいいぜ！」

彼は何かを付け足し、カーテンへ走っていった。

黎李「未知の可能性を秘める、諸星黎李！」もろほしれい

やっと決まったところには、午後8時を回っていた・・・。

大問題！？人間体はどうする（後書き）

グレンファイヤーたちの名前は、私が書いている他の作品からとりました。

やっぱりヒーローはカッコいいですね！

最近はおーズにはまっています。

アंकカッコいい・・・！

顔の問題、大問題！（前書き）

人間体を手に入れた4人。

近くのホテルで休んでその翌日、

何かトラブルが起きたようで・・・。

顔の問題、大問題！

「ぎゃあああああ！？」

響くカイトの悲鳴。それを聞いて、ウルティメイトフォースゼロの3人が駆けつけた。

ミラー「どうしました！？」

グレン「焼き鳥でも出たか！？」

鳥鋼「何故だ！？・・・それよりも、カイト！？」

泡を吹いているカイト。その正面に立っていたのは・・・。
？？「お、おいおい！人の顔見て泡吹くとは何事だ！？」

どこかのノートに人の名前を書く人がいた。

グレン「誰だてめえええええええ！！」

？？「なんでおまえは変身しているんだ！？」

どうやら、グレンは知っているらしい。

黎李「おいおい、おれだぜ？ゼロだぜ？」

「・・・なんだとおおお！？」「・・・」

数分後・・・。

カイト「ごめんなさい。なんか、拒絶反応が出たもんだから・・・。

」

黎李「そ、そうか。部屋から出るなり目の前で泡吹かれたからびつくりしたぜ。」

カイトは黎李に謝罪していた。

ちなみに・・・。

それぞれの顔の特徴（？）はこうである。

ミラーナイトはどこかの『星を壊す者』という名の魔砲を放つ少女

の兄にそっくりで。

グレンファイヤーはどこかの関西弁の熱血漢にそっくり。
ジャンボットはどこかの超ネガティブ先生に似ている。

蓮「それにしてもよう・・・。」

人間体となったグレンがゼロにいった。

蓮「何でお前、昨日と顔が違うんだ？」

黎李「あり？本当だ。何故だ！？」

ちなみに昨日の顔は、「ウィツシュ！」と言う首相の孫にそっくりだった。

鏡也「（中の人ネタすぎる・・・）」

真悟「（そして私たちもな。）」

黎李「まあいい！こっちのほうがつくりくるから、今日からこの顔にするぜ！」

真悟「そうするといい。毎日ころころ変わっても困るからな。」

その際、カイトがどこからか拳銃を取り出したのは内緒である。

黎李「さあて、今日は何をするかなあ。」

蓮「その辺回ろうぜ。」

鏡也「それはいいですね。」

真悟「うむ。そうするか。」

ウルトラの街を見て回ろうとする四人。

カイトはバイトがあるようなので別行動となった。

何も起こらなければいいが・・・。

顔の問題、大問題！（後書き）

中の人ネタ満載です。

ミラーナイトたちには困りました。

中の人がやっているアニメをほとんど見たことがないからです・・・。

ゼロは簡単に決まりました。

ちなみにアニメではありません。

映画のほうです。

それと、首相のお孫さんは・・・、

来年の映画、『ウルトラマンサーガ』でゼロの人間体が
DAIGOさんだったからです。

映画が楽しみです！

衝撃！ティガ家族の真実！？（前書き）

街にはさまざまな家族が住んでいます
さあ、どんな家族でしょう？

衝撃！ティガ家族の真実！？

黎李「あー、本当にいい街だな。」

空を見上げ、つぶやくゼロ。

それもそのはず。太陽はプラズマスパークによる人工太陽。

空気は澄んでいて、ごみひとつ落ちていない。

そんな街だからこそ、ウルトラマンや怪獣が住めるのだ。

真悟「そういえば。」

蓮「あん？」

真悟「ゼロのお父さんや、初代ウルトラマンたちはどこに住んでいるんだ？」

素朴な疑問。

鏡也「ああ、それなら。街外れにある老人ホームに住んでいるらしいですよ。そこでは、ネオスやセブン21、ゼノンといった、強化形態のないウルトラマンたちが働いているそうです。」

黎李「そうか、……ってなあ！？なんで老人ホームなんだ！？」
鏡也「さあ？」

理由は簡単。外見がおじいちゃんだからだ。戻そうとすれば若返りも出来るものの、キングの一言で、老人の外見になることになった。キング「人が若返るものではない……。それに従い、我々も若返らないようにしよう……。」

ちなみに、キングの外見は小泉。一郎そっくりである。

ダイゴ「おーい！ブラストー！」

真悟「あれは……マドカ・ダイゴではないか？」

大声で何かを叫びながら、あちこちを駆け回っている男。
マドカ・ダイゴだった。

ダイゴ「あ、君たち！」

黎李たちの元に来た。

鏡也「どうかしましたか？」

息を切らしているダイゴ。

ダイゴ「君たち、ブラストを見ていないか？」

話によれば、ティガブラストという青年が家出したらしい。

ダイゴの家族は、ダイゴ、スカイ、パワー、ブラスト、トルネード、グリッター。両親にダークとカミーラという構成だ。ちなみにカミーラの弟たち、ダラムとヒュドラも住んでいるらしい。

ダイゴ「……どういうわけかブラストだけが不良に育ってしまったね……。今日も家出をしたんだ。」

蓮「そ、そうなのか。」

一緒に探してくれないか、と頼まれたので、黎李達も探すことになった。

ちなみにそのころ……。

ブラスト「けっ、やってられるかよ！」

ブラストは近くの橋の下で休んでいた。

黎李「おい、ブラストとやらー。」

4人と別れ、街の東を探す黎李。

黎李「この辺りにはいないようだ……。つか、ブラストってどんな感じなんだ？」

まずブラストがわからない黎李だった……。

蓮「やーい。不良ブラストー。」

蓮は街の西を担当していた。

しかし、見つかりそうにない。なぜなら……。

ここは、ゲームセンターだからだ。

蓮「不良といったらここしかねえと思ったんだけどよあ……。」「
さすが不良。ただし今回は外れたようだ。」

真悟「ふむ。不良といえど、何か考えがあるに違いない。」

街の南を担当するは真悟と鏡也。

しかし、歩いて探していない。

近くにあったデパートの屋上から、街を眺めていた。

鏡也「あ、あその橋の下。誰かいるようですよ。」

真悟「行ってみるか。」

デパートの屋上から飛び降りた二人。

華麗に着地して、そのまま走り出す。

ただし、後ろにいた千樹憐に一回止められたのは秘密である。

——赤王橋。

鏡也「……見つけましたよ、ティガブラスト。」

ブラスト「……誰だ、てめえら。」

ブラストを見つけた二人。

ブラストは二人を知らない。なぜなら……歓迎会に彼だけ出席していなかったからだ。

真悟「まあ、家出した君を探しているものだ。私は鳥鋼真悟、彼は夜走鏡也だ。」

ブラスト「へっ、そのちょーこーときょーやが俺に何のようだ？」

鏡也「なぜ、家出したのですか？」

静かに問う鏡也。ブラストはそれにかつたるそうに答える。

ブラスト「あの家に居たくねえからだ。あのダイゴとか言う男が気に入らねえ。」

真悟「そうか。だったら、気に入るよう、いいところを見つければ

いい。」

ブラスト「んなことできっか!!」

真悟「大丈夫だ。私にも、最初気に食わないやつがいた。」

蓮「ぶっへーくしょんっ!!」

真悟「そいつはな、人のことを焼き鳥と呼んできた無礼者だった。」

蓮「ふぁいやーすていっく!」

真悟「人には簡単に馬鹿と罵るし……。」

蓮「ろけつとばんち!」

鏡也「おまけにお調子者で熱血漢で暑苦しくて……。」

蓮「ぶらすとばーん!?!」

真悟「そいうやつでも今は立派な仲間だ。」

鏡也「ああ。」

ブラスト「……面白いやつらだな……。なあ、」

鏡也「ん?」真悟「なんだ?」

恥ずかしそうに、小さな声で。

ブラスト「友達に、なってくんねえかなあ……。」

——数十分後。

仲良く遊ぶ3人がダイゴに見つかったとか……。

衝撃！ティガ家族の真実！？（後書き）

なんか今回文字が多かったですね・・・。
次はダイナ家族について書きましようか・・・？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4003y/>

みんな大好き！ウルトラの街！

2011年12月3日19時46分発行